



奈羅乃都万傳一

ホ 2
4779
2



あーよゆくな 足徒行の古
中 於是小計之

あき 生 日 神代
後代 此子のあきまことむい

あきこころ 未ん 日 丹
心 里 心 万 十

あろ 主 心 万 十 ち ぎ 一
け ち 乃 有 一

あろど 坂 有 心 万 十 向 一 夜 ち づ づ
ま 一 心 同 十 五 味 衣 乃 ち づ づ

あろづく 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あが 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あさい 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あさ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あさかけ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あさま 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あさ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あせ 天 皇 乃 ち づ づ
一 天 皇 乃 ち づ づ

あーよゆくな

あき

あきこころ

あろ

あろど

あろづく

あが

あさい

あさ

あさかけ

あさま

あさ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あーよゆくな

あき

あきこころ

あろ

あろど

あろづく

あが

あさい

あさ

あさかけ

あさま

あさ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あーよゆくな

あき

あきこころ

あろ

あろど

あろづく

あが

あさい

あさ

あさかけ

あさま

あさ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あーよゆくな

あき

あきこころ

あろ

あろど

あろづく

あが

あさい

あさ

あさかけ

あさま

あさ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

あせ

怪行女母土師の和遊文

あざり

あざり。萬三。山のありあがり。うら。うら。のこ。より。な。を。わ。り。う。ら。う。ら。と。何。い。古今

喜の日乃ひうりま
たるうれれと

あたたか

恰。顔會云適苗之謂。万十九
あ。か。せ。仙。う。ち。き。ぬ。り。さ

新代又新夜。万一。あ。や。き。き。も。わ。ら。い。と。同。十二。あ。ら。夜。の。う。も。れ。ら。ん
よ。古今。百。多。き。つ。る。ま。か。い。の。う。も。れ。あ。た。ま。れ。と。も。つ。れ。う。り。ゆ。く

惜。の。日。林。代。雜。田。之。所。理。備。若。地。夫。治。多。良。斯。也。汗。音。同。雄。畧。あ。ら。し。き
由。あ。の。う。ら。く。の。古。下。あ。ら。ま。ら。を。ら。万。三。本。は。き。り。り。つ。あ。ら。并。本。を

あ

他。の。方。十。あ。い。の。枕
同。十五。あ。い。の。う。ら。を

あこめ

花。物。の。万。十三。人。あ。こ。の。ろ。の。ろ。
○古今。ち。あ。や。い。の。う。ら。か。あ。の。あ。こ。

の。あ。ち。き。なく
を

○日。無。狀。无。端。無。道。の。父。無。為。人。り。ん。を。五。味。と。と。り。あ。い。を。
ま。し。から。い。又。俗。よ。に。う。く。し。あ。い。よ。う。く。と。味。う。ら。れ

○万。七。あ。ち。き。なく。あ。ひ。尺。ろ。め。も。つ。れ。い。と。古。今。や。と。ち。う。く
う。め。の。あ。い。う。も。て。あ。ち。き。なく。ま。つ。人。の。音。あ。や。ま。う。ら。れ。け。也

○万。十。六。あ。い。の。う。ら。を。後。紀。十九。葉。之。終
こ。あ。つ。の。う。ら。の。厚。子。重。女。美。之。厚。美。之。

あたらひ

詠。の。説。文。相。呼。傍。之。
○万。十六。有。二。壯。共。詠。此

娘。而。指。生。格。疑。○古。今。凡。母。あ
つ。ら。へ。つ。く。と。の。あ。い。り。か

あともひ

傍。之。万。二。軍。を
あ。い。と。い。た。ま。ひ

○又。つ。祝。子。達。妻。之。万。十。五。あ。ま。れ
ま。に。し。て。の。ま。う。く。や。し。き

あぢい

不。遇。而。之。ま。い。助。之。も。ま。ま
こ。り。は。ま。字。の。ま。の。こ。ど。

○方。十。一。あ。り。ひ。乃。見。乃。か。と。い。ひ。し。て
料。より。り。あ。和。石。空。明。阿。波。比。附。石。也

あひうづ

相。取。形。之。万。十八。種。あ。ひ。う。つ
な。い。後。紀。詔。云。此。物。昔。天

○方。十。三。山。と。海。と。ろ。山。の。ま。よ。か。く。も。現
坐。神。地。坐。神。乃。相。字。豆。豆。此。奉。神。波。係

あぶり

火。焔。乎。之。万。九。あ。あ。り。は。ん。あ。あ
ま。さ。も。ぬ。れ。き。ぬ。を。あ。ら。は。ら。な

仰。之。万。二。久。の。天
尺。と。と。く。仰。見。し

あへぬ

和。貫。之。和。壺。あ。不。又。信。毛。乃。擣。薑。蒜。醋。和。之。也
○万。九。は。と。き。れ。ち。う。ま。つ。こ。を。を。擣。り。た。ま。ふ

あへぬき
ぬき

あへ

耐。之。説。文。耐。進。取。又。忍。為。之。○方。三。軟。緩。の。月。よ。き。う。ひ。あ。へ。む。う。も。同
い。き。子。と。も。あ。へ。て。こ。き。と。む。れ。も。あ。つ。け。し。同。海。波。の。い。て。く。あ。へ。き

ついでにきりハ。古今ちハやふる祚のいつきよあま
くても杖ハあへんうろひにけり。た。天あまた
り。万五のこのときりよ。あまりに
あまりに
あまりに
あまりに
あまりに
あまりに

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

あまた
あまた
あまた
あまた
あまた
あまた

アて 在在而也。方四ありさうて あまうるものにあれや 在得物不有 哉。方十五志

ましくもいなりあや あひこしめとぢ 令相見之。方三嫌をめ かれをたしめとる あさか

に 暖之。方三つうのつこいまま あせしら志ぬま 天所知在之。方三あせ らしぬれこいまちひ

ひつちちなけくとせむまへも 不欺之。方五あさむかたたく よおひきてあまちしらしめ

。魂の天へゆりまふをまけし 同。わりのむらと あさむかぢ ありこそせぬかも 有社不ぬ 勝之。方六

ふとせいほとせ ふとせいほとせ あら 浅之。方四あらう、 にかつひあれとも あまのさうて 天逆

るこそぬかも あむさむ 令ぬ浴之。方十六 捨捨より くるきつにあむさむ あめつちにまういしらぬ 天逆

まはら 天地不小至大丈夫也。方十二。大丈夫の ちさく天地をもつぬくものわれも あうぼ 太白星之

ときハ夜のゆるあふたへる 方五わうほりのあくるあ あかとき 曉之。方十 旭時。同

。和歳星一名明星此間言ほ加ほ之 方五へま出るをいマと あさと 朝

八日 五更。同 鶏鳴霧。同 曉月之在ぬ月ちへ あうし 令明而之。方十あう いていけハ母ハ志とも

。表その あけくま 明闇之夜のゆきをむてまうしとら あさと 朝

。日崇神 あさごごち 朝東風之。方十朝ごち にあてられまうと あさし

も。方十朝え出乃君うようひを あさひけ 朝毎ま之。方三ち山乃 ち孫のちうや朝よけに あさひがけに

。ほ 朝潮之。方十坪はより朝 あくもあした 明朝之。方十五あくるあした ありはまにいていまるく

。大 そのつ甲の子らあさよ あきつけハ 杖は廢乾之朝つく夕つく 家つく日しち之。方八杖

。ひ にあさくくあさし あさくくらにまおし

。き あけバあくとも 明者能ぬし 方十同土

つけハ尾花うへよまき波の。同九
つくねのまきくをくもるハ在月
きにあせり
あまぢ
あつけき
執つけきハきの返きハ遠きと
けきとよふことハ。方九あつけ

あまぢ
天路。方五久。乃あまぢハとほり
なほ家にかりて星を忘ますとふ
あまぢものた

いたふ
方十五。天をのといたいやまきんるハ
われをきてのめりまていこも
あまぢものむらみんきハ

あまぢものむらみんきハ
天雲之向伏極。祝天雲終向伏限谷候終狭液極
あまぢものむらみんきハ

あまぢものむらみんきハ
方三。天をの向伏。同。天をのろきへりきとこ
あまぢものむらみんきハ

あまぢものむらみんきハ
方十。古今やにち初うちかきハ
けの夜乃月。千中夜にそ初あつけ
あまぢものむらみんきハ

あまぢものむらみんきハ
天進。あうくろひへるをり。方十七
そ乃まへをわけ天ろをき立山
あまのた

あまのた
雨晴。方十。雨ちり
のそまたくひては
あまのた

あまのた
雨。方四。雨つこつ初
あまのた

あまのた
雨。方八。ほとくきハあま
まてわくねこもちきわら。雨の
あまのた

あまのた
方六。天地のまききうこと
あめ

あめ
方六。天地のまききうこと
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

あめ
方七。越俗借東風謂之
あめ

○方五 天地の神をうつ
祈いもまへなり
あらひとかこ ○日景行 吾是現人神之子也。○方六 位在の
荒人神の船のへまうーたきたまひ。後後

十九 現人神と所とまひ。和現人神。袖あまらるる荒人神のあひおひをねりひさし一信衣
乃神。後神北也よせまらるるひつやなりきまをうつらうんきとあり人神もありむ

かーあがし ○方七 あをこあここのおれむ
○古今よりあここのんよかえいてたーや
あさぢのき ○方七 船を
きよまよるる浪こま

くほ ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ
あさぢのき ○方七 船を
おとまきりてし。海の荒集よ

まつよたうと花さけりとりよ。六あせことより
○方廿池のよ乳さへ入えて焼にけりよあーひのた
まけるあつさぬの花とよありけふもに世配よ花さきてるこは花でもてろむるうこと
一様茶の上甲より。方四ことよりぬきもらあちさぬとよありもせよハ五尺中
よもちりてあめ
ことくちれれ
とりよこれろ。方土よりよ
あへ橋のこけむれきてに。甘橋
年詔曰昔日五日之すめ南用言藤為漫時来已停此より後今而後非藤藤漫老
加入文中。延凡五月五日すめ今文武郡官英言藤漫。本之藤藤藤除一切惡蝎
午日加藤藤
酒飲之
あをな
をちをて茶。和蕪青河平よ
あをな
をちをて茶。和蕪青河平よ
あせ
ふ。方三冬このあ
翠衿
あせ
仙

あぢきぬ
○和紫陽花あり
伏ね。六はひら
あふひ
○方十六
葵葉
あへたちなぬ
○和橙あはたお波
似柿而小若しと花柳
葛蒲
○方十あやめをよかつらよせ
む日こちをきりしれ。後紀天平十九

あやめ
葛蒲
○方十あやめをよかつらよせ
む日こちをきりしれ。後紀天平十九

あは
○古上
あわ
あわ雪の

あせ
浅くなりかり
ふ。方三冬このあ
翠衿
あせ
仙

あせ
ふ。方三冬このあ
翠衿
あせ
仙

衣
喪服。○方十三
へのほに麻衣服
あさぬをま
麻被
○方五
あきつえ
杖はまの紅
きり衣をつら

あらたへ
○古拾織布
あらたへ
○古拾織布

ありきぬ
明衣。○古下ありきぬの三
のふりさかせる。方四ありきぬ

あをきくぬぎ
古蓋。○方十九
けりあかも似るうちきぬぎ
○今蓋一位深縁三位紺四位徳。和華蓋岐

あこえ
あこえ

あつもの
美之熱の
○方十六われに
んせろふ葱乃者物。楚辞江有采

あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ
あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ

あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ

あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ

あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ

あは
○古下其臣服著紅紐吉指衣故水潦拂紅紐。○山あ

あふぎ 扇。方九あふぎ
あふぎ 燈。和語

あーわけをぶ祿 方七 葦舟小舟
あーからを

ぶ祿 足輕小舟。古下 欠す海之西有る樹其樹之乳苗且日老速治路高者乃白老
あーひちまきききあら

あーひちまきききあら 無價宝。方三 ありひなま

あーひちまきききあら 宝とよも二つきのにこれ

あーひちまきききあら かきこせり。方七 葦舟小舟

あーひちまきききあら 編間。方七 竹垣のあまらにも妹

あーひちまきききあら あたるらまひ

〇

伊 發語。方一 いちまて。同三 いちまてわり
伊 後記 定今 仲麻呂伊。後後 葦舟令人

伊 健岑伊。方三 志斐伊。いまをせ
伊 如何。古上 汝身者如何成。方四 ありまにもまら

伊 同 紀乃等伊。そかい。たはしし。かに
伊 われをたきていふせむ。同土 何有人。あわら

伊 む。又いつても。方二
伊 歳多。又いつても。方七 ありまにもまら

伊 徒。方一 都をとほ。いつても
伊 痛。又いつても。方七 ありまにもまら

伊 同土 いつても。方七 ありまにもまら
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

伊 いかに
伊 いかに

いにへのま 古風。日 垂仁 いとまなく 無暇。方五

うよにほち乃あーのいんまき 谷。源きう。いんら いかに て。源きう。いんら

さほよ い。發諸多あこ いたづく 日 勞竭。古今さくをたよわひつこの

いなせ 不口諾。方十六 いまもせおとそむすにゆらへー 不知。方土

いりさまに 何方。方いりさま いちぢく 不ま。方このゆぬえ。方これ

いみだま 入乱。方いりりいれ夜 いむむま 方二 將言め便せ

いさひふ 這伏。い。あつ。方二 いちぢく 方二 將言め便せ

いまはりのちり 今廢せ。方三 いたく 抱く。方三

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

いさ 方五 いさ 方五 いさ 方五

麻自抄る自抄男自字れありこまさまに

いづつどり

いぬまほえころ

いさひも

いろど

いたやく

いつるや

いとち

いひ

いづべ

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いづつどり

いぬまほえころ

いさひも

いろど

いたやく

いつるや

いとち

いひ

いづべ

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

いとち

神代 顯齋此云之因始破毘。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

ひるいそれこひーわれ。○同。一つー ままかと。源 五言 ころしころ

顯此。○方十 ころら。又まのほーきき君にも

るかも。土うつら。神乃ま。一をこ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

久にあふち。そのつーい。祝皇孫令神。るま乃水聲。

布。○日 神代 伊弉諾言曰吾欲使侍之珍子珍此云千國

花ハさけしし。のち。めも。味うす。さきてぬ。○同。まの

あうのかき子をねき。さむ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

跡。○方十 うとすれ

あふさつ。さむ。うなかけり。○古上 宇岐申而る於又子埋也。○日 神代 此其頰

うかけせる。○方十 六言 うぬけるむの七つ

をよりかへてまをさむ。も乃を

○日 天智 一板之同松生而植其且

垂頭而熟。○方十 三言 ころら。め

うなひて 大等而之。○方十 五言 のをさ

うなひて 笑る 樹の花

うなへ。○日 仁徳 ちんらそのつーんもぶつちーん

うなひー ちんらそのつーんもぶつちーん

うなへ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

うなへ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

うなへ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

後紀 ちんらそのつーんもぶつちーん

よかくにほひたりけむ。うむ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

一七。○毛 不属手毛 不離于裏。○ん ちんらそのつーんもぶつちーん

うなへ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

伊弉諾のちんらそのつーんもぶつちーん

となく。うなへ。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

肉。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

二月三日 暹。○しんらそのつーんもぶつちーん

やふひ 日。○しんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

なるくも。古今 杖木 きにうらふれを。足曳 八山 下 ことし。麻の。ちんらそのつーんもぶつちーん

恨。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

○日 神代 友無。○方十 ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

ちんらそのつーんもぶつちーん

もつろくきつとあれの契うけりへ。伊あつさ

しきこととをへてつて。さうさうさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

たぎや志こほるきれあつさのさうさうさうさ

いさかりにも思のまことさうさうさうさ

ハふこ 題之。伊のまことさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

杖桑畧記之廿九日風邪は平さ。四葉傳や海流

之間揺り女。眩暈來れを。其街まのさうさ

さうさうさうさうさうさうさうさうさ

いさかりにも思のまことさうさうさうさ

ハふこ 題之。伊のまことさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

たぎや志こほるきれあつさのさうさうさうさ

いさかりにも思のまことさうさうさうさ

ハふこ 題之。伊のまことさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

權之。後代この

たふさうさうさ

信之。

遊行女婦之。万の洞窟に之。和

遊行女兒之。かれ女又あつさ

北月後之。古中

ろてハをさうさ

保見のりさうさ

鳴奴舟之。万九

さうさうさうさ

いさかりにも思のまことさうさうさ

ハふこ 題之。伊のまことさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

たぎや志こほるきれあつさのさうさうさうさ

いさかりにも思のまことさうさうさ

ハふこ 題之。伊のまことさうさうさ

いふこととをへてつて。さうさうさうさうさ

うびきさうろ

いづきまやぬ

おて

てやけの死ぬとも

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

おて

いづきまやぬ

おて

てやけの死ぬとも

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

いづきまやぬ

おて

てやけの死ぬとも

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

いづきまやぬ

おて

てやけの死ぬとも

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

ちりあめ

うさゆつる 儲子孫之。古中 自頂髪中採出設法此云了休中豆品。日神の 儲子孫髪

うさゆつるま 後後牛車波 善も半夜 表符極之。方五 ちりきり。にうい。う

うつちかひ 虚る花負之。方土うつちかひ交 和笠捕奥竹筒也。 万土山川にうを伏た

きてとりあへぬ。毛持 谷凡 母逝我梁母發我筒。丸く管をもあててう人をひらつよそ
アヒも奥乃ちぬやうに。て川の邊。口ちやにわてたけい新やとさ。為かりて首を
さしてさすれ
てとりあへぬ

○延

え 愛之吉之。古上 あなにやーえを 傳為表之。方土 ちりきり。にうい。う

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

○衰

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

えんちち 得在之。方二 づれはるや 日神代 役。同 飲明 課。方五、
えんちちをいふはるや

十七 放逸をふるにを〜のろこをりねり。招餌より。後 をこ うことよま

下に既より。古中いやをこに をさ 日 神加不肖。同 仁徳 不賢。同 成務 幹

はりきをさ〜もぬきへまゆめにち〜にころたへ。伊さね〜 をさ 虚言と俗に〜より。古中 鳥よ

けねいふもをさ〜からん。源そのい〜く袋をさ〜 をさ 大さるものまさとこにもあまは

〇万八ち〜まひをさ〜 をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

あ〜回をかりてをさ〜むら〜のえは をさ たのあ〜ね〜に

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

なふときろかもし。〇

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

〇万七をち〜のえは をさ 彼方此方。〇万七をちちのいろのゆき〜

権ら丈夫らんをり。方十。あつちのまら。い。くらぬ
まら。を。わ。ひ。わ。わ。を。ら。も。ち。き。

まどる。同十九。まき。の。地。に。さ。を。と。る。き。し。
を。え。わ。り。小。放。髪。の。万。九。を。え。な
ア。に。髪。た。く。ま。て。に。

ま。ま。ち。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。ま。な。か。い。麻。倍。名。の。系。乳。方。四。
よ。の。を。り。乃。を。ま。な。け。あ。い。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。の。ま。が。た。推。之。え。い。
を。と。ま。ま。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。の。か。こ。男。神。え。
。方。九。を。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。こ。ま。び。や。道。人。い。
。日。推。古。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。が。し。齋。金。い。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
を。ま。ら。日。彼。は。見。
。方。九。を。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

ま。ま。ま。ま。も。り。け。り。も。り。も。り。
。日。ま。の。

きあへ

尾の食之。古下まなちらをしきあへるまのうけまりあて
。又女の書りなるとして御らうにまらうきあをのこまらなれ

ちゆねて

。万十まぬのめは尾ゆね
。万十山多乃をちのえ

つまら

をろち

大蛇之
。日神代
食之。日神切あきれをせきし。同か入る大蛇

かいかけ

を

酒きこーをちをせ。万六えちらふと志
小里之。万九昔大蛇志

食むま

を

。後紀兼和九年詔曰因茲
。同か入る大蛇

を

を

。万十ゆたへの神をりかし
同ま印たへの神をりかし

を

を

。万七たきこころほと
。松小共こま

を

を

。万七たきこころほと
。松小共こま

おもゆらた

。鈴陰之。万十九ぬりのをまもゆらた
。日神代 瓊音 翁之。ゆらたるれをりよ

おもゆらた

。小柳之
。万三つ

か

。首に流るる神之。万廿杖の田乃ほくのかりまらなりあり。同二ひぢをくむ藤。催まる
かひあひにけり。かよりあひにけり。源。音 係にまらふかやましくかす。同か

。万廿杖の田乃ほくのかりまらなりあり。同二ひぢをくむ藤。催まる
かひあひにけり。かよりあひにけり。源。音 係にまらふかやましくかす。同か

。万廿杖の田乃ほくのかりまらなりあり。同二ひぢをくむ藤。催まる
かひあひにけり。かよりあひにけり。源。音 係にまらふかやましくかす。同か

。万廿杖の田乃ほくのかりまらなりあり。同二ひぢをくむ藤。催まる
かひあひにけり。かよりあひにけり。源。音 係にまらふかやましくかす。同か

。万廿杖の田乃ほくのかりまらなりあり。同二ひぢをくむ藤。催まる
かひあひにけり。かよりあひにけり。源。音 係にまらふかやましくかす。同か

後後丸 芳よあの一
可忍之。日仁徳 かつこき
あやにかーこーたりひるひのここ方一をんるき

乃ここと かつこ
團之。日仁徳 かつこ
あはの方五 万のあまよるも

不有ぬ。方五 ちりひちのあまぬ
あまぬ かつこ
あまぬ かつこ
あまぬ かつこ

乃かろゆきこ乃ゆかへか
片後片念片生片第片系片山片於片
乃におほ

山 方之。方大 面を先
肩 将合勝之。方十八 かつこ
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか
乃かろゆきこ乃ゆかへか

かゝるて 。方土衣 かゝづらひ 。源帚木 かゝらふ 。文鞅掌

ことき 。方土衣のうへに敷 かき 。冠鬼 かこ 。水衣

報多きに切のめ 。日鷹神 天自幸陵 。而菴楯之 於是天皇西望之 。数十鹿 鹿

牛是年老目之 。雖致仕不得 志朝故 。己女 髪長媛 。而貢上 矣天皇悦之 。即喚令

從御 。船是心時 人号 。其著 岸之 。處曰 鹿子水戸 。也凡 水手曰 。鹿子 盖始起 。于是時也

ことひの 。うの っざい 。頭刺 方土 。長へに 花 。さし ち 。杖 ち 。は ち 。か さ 。り 同 。き

川 。を 流 。して 後 。の 集 。ま 石 。き の 。天 文 。人 いた 。ま あ 。れ や 。っ 火 。方 五 。ろ き 。に 火 。焼

さ 。ら だ 。か して 。し め 。と ち 。ら っ 。て ち 。を ち 。は 自 。他 だ 。た び 。て げ 。ち 乃 。集 加 。き て 。飯 っ 。と

七 。つ ち 。か っ 。こ き 。ひ と 。賢 人 。の 万 。三 っ 。ら の 。か づ 。い ろ 。ハ 父 。母 の 。日 竟 。宮 家 。か づ 。い ろ 。ハ

こ 。と せ 。に ち 。り ぬ 。か づ 。ち に 。い ろ 。や 猶 。に 所 。足 起 。之 方 。五 否 。と 誤 。と ね 。を ち 。む ち 。し け 。ん へ 。ん

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

ち 。に 足 。ち 有 。燒 之 。日 神 。内 接 。天 善 。山 之 。も 男 。麻 之 。肩 披 。り 乃 。は 子 。麻 の 。肩 月 。を や 。き て

弱有太子能きわけ。同景初。はうたわやかいあるとまわさ
かふちめ乃てづめのいと

河内七之の深乃者。二万七千七百のてうめのいとをうりか。か。い。と。に。あ。れ。と。え。ち。と。わ。り。や
。同。古。大。れ。女。の。い。さ。ま。く。こ。し。に。あ。さ。わ。け。ら。は。あ。な。式。内。祭。祭。年。初。は。服。着。儲。神。依。前。仲。每。年。は。皇。宗
付。河。内。必。依。仲。唐。織。野。取。祭。祭。其。産。功。者。用

察。高。布。千。八。百。限。充。信。足。三。辰。日。添。五。人
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

預。槌。斂。英。首。境。株。等
。容。體。二。万。四。千。た。こ。の。ぬ。よ。う。さ。つ。な。へ。て。よ。ま。ん
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

ハ。皆。つ。取。の。祥。乃。く。一。か。ほ。よ。き
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

ケ。緒。髪。二。万。六。千。の。ち。り。り。の。あ。け。つ。ら。り
。日。之。景。皇。后。再。之。恨。曰。幸。自。鏡。鑒。於。後。宮
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

ス。ふ。ち。ふ
。万。九。千。り。人。も。ふ。移。さ。う。か。へ。て。あ。ま。ち。り。り。の。あ。け。つ。ら。り
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

上。巳。祭。後。其。曲。名。言。う。し。を。わ。れ。い。れ。ち。り。り。の。あ。け。つ。ら。り
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

三。日。と。な。れ。も。昔。に。准。て。上。ま。り。り。の。あ。け。つ。ら。り
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

つ。く。お。へ。り。を。わ。か。り。て
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

い。は。た。か。れ。る。こ
。假。在。月。二。万。三。千。つ。せ。り。の。か。れ。り。い。れ。れ
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

わ。き。と。こ。に。こ。い。つ。を。れ。い。き。ぬ。の
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

か。れ。も。あ。ま。り。と。や。ま。り。あ。り。て
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

か。ぶ。て。い。る。ひ。と
。日。孝。後
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

い。わ。せ。あ。ま。り。の。か。め。ぬ。の
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

い。れ。の。あ。り。け。ん。れ。い。も
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

は。ま。ぬ。う。ら。ん。ま。ぬ。海。を。や。き。ろ。伊。人。ま。り。れ
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

つ。ら。り。の。あ。ま。り。ま。き。や。い。つ。れ。の。神。ち。き。た。れ。は。せ。む
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

ち。り。つ。き。の。日。神。和。雷。電。霹。靂。二。霊
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

。字。鏡。靈。雷。一。雷。乃。不。留。本
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

に。い。り。り。か。こ。り。ま。や。ひ。と
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

。神。祇。詳。因。而。之。万。四。天。地。の。神。こ。と
。古。中。か。あ。つ。く。ま。い。に。あ。て。り。日。の

か。あ。ち。め。乃。て。づ。め。の。いと

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

か。あ。つ。く

といへく大蛇なることしの
しり乃かこしちさきむ **かこり**こつておとすくもれ
神之由も用器也
古下わらひのち

乃こつとちひくことしにまひはるをまかこし
よにもかこも。天を乃自望をあらうとんをよ **かこ**のまをいへるのさ
神之持在
命之方十一

ちいなる神のたとしてこのちをも誰くあつちたうくろりせも。今うつまの世人のこの
ちいねのちし神のたをちあまをえ。後挽きこつたあねのちとせもつきまぬへ

これよりまゐる **かこ**りつにまをまき
神業板より板之。方九かこは
いの神なりつこまをまき

乃わらひもまきんきのまけきに。神の天路を板をまきとらぬ
。後挽捨もちりこり神より板よひく板のいひうままけきこひか **かこ**あひ

かこあひ 雷神也如之。日
こちのきりこは

とめを神のこまきこえしとあまうらまうく。方十二神のこまきこゆ。既のまきと
乃神のまきこえぬこのは。古今つらひいをも井たるは。後神のたとまきけともあひ

をな **かこ**び 神より。方七
ちまけしとくくし **かこ**ひ 神より。方六
とまけし神より

かむ大 **かこ**ちのあら **かこ**のみちあ 。日
亦自有神乃こく。方一山川もより

つらる神より。たまきつ **かこ**あ 神より。方二
かりありい **かこ**さ 神より。方三
ゆりをり

ちよあちをせは **かこ** 方一
か

。方一乃大君の神を **かこ** 方一
か

から神きひせん **かこ** 方一
か

み 雷之。方十四
か **か** 風之。方二
か **か** 風之。方三
か

風を。方五 **か** 風之。方六
か **か** 風之。方七
か **か** 風之。方八
か

東の雨。方九 **か** 風之。方十
か **か** 風之。方十一
か **か** 風之。方十二
か

か **か** 風之。方十三
か **か** 風之。方十四
か **か** 風之。方十五
か

乃をよわちり。方十六 **か** 風之。方十七
か **か** 風之。方十八
か **か** 風之。方十九
か

乃をよわちり。方二十 **か** 風之。方二十一
か **か** 風之。方二十二
か **か** 風之。方二十三
か

乃をよわちり。方二十四 **か** 風之。方二十五
か **か** 風之。方二十六
か **か** 風之。方二十七
か

ちぢまをいひまゝにれひまのてめて入船ま―おを。華を

かきつ乃たに

君つちとひまをりときく―より風をぬてもいらむらうわり

臨臨乃〇方ニとち夜の叫

垣内之谷の家のはりの谷をいふ。方十九

かげぬむみち

ふむた乃ちまゝ。後

つらさかきつのかをいふ。橋をき枝よ

かけさへるる

影副所乃〇方十六。山がけ

ちぢれに居るむしをけれと

和戕野の所。船舟也。方七

かえぢ

河津。〇方六

つらさかきつのかをいふ。船舟をいふ

かたかたにあらうわら世のなづねあて

〇方土。河よる。は

てあつあつり

かたかた

河津。〇方七。す。世の

かたかた

河津。〇方六

つらさかきつのかをいふ

かたかた

河津。〇方七。す。世の

かたかた

河津。〇方六

つらさかきつのかをいふ

かたかた

河津。〇方七。す。世の

つらさかきつのかをいふ

かたかた

河津。〇方七。す。世の

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

かたかた

和峽山間陝をいふ。古下。こちくの山の叫ひ。よ。ち。さ。う。の。方。七。山。乃。叫。ひ。う。こ。も。ア。ん。え

ほろろハムへてこも
かきこのもゆらも
。方土たち福の母のわこのも
ことりつせくもさうあふ
戻る。方十九まさん
大のこのかき

てて。日 神代 眉上は雲又り表衣衣雲の地系
。母の作をそつて眉をもて海雲は雲の
かへるや
雁之使。方九をささる馬く
ひ山ゆえとさなりかりのうひハ

かぬ 雁之使。方十枝の内方かりもつめ
ゆけそつりうぬゆもかこすけて
雁之使。方九をささる馬く
ひ山ゆえとさなりかりのうひハ

やうりまのり。日 神代 乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
。名之阿鳥到其宮而修之曰天林子居地恒平過
にのりこむ
鳥子産。日 神代
きつまやまの

かたきや
。進大肆賜獲白蝙蝠者
かほ
男。方十。神代
のけ。仙。名。かほ

ハもやのやま。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
いへも男。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かぬのまけ
こひももつ。かき
のど。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

を
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かこのは
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

遊記念。日 雄雲
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

も
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

明衣。又。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥
かき
。方十。神代。乃使難往候之。日 神代 更まは八羽鳥

なたをとし
にまつし
鉄又土具を互ふぐし
とよこあふしとち

桔槔キコウ。和桔槔鉄索井テツソウイ。加そあ
豆をぬ。まき以機汲キコウなり
かたなぬぐし鏡。和鏡
かき布久之埤

○き

きこころし
令聞キコウ。古よのころしをありとまきしとくくめを
とまきしとて。日 慈神 松屋之葺知。日 仁位 不令聞。方六 吾大君のまきしと

にまきし
たまひし
軍不徳。方九 ほとまきしゆわたりぬと
きねしとまきしとかりなりまきしと
くつきつや。方十 ほとまきし
あまきとまきしとかりなりまきしと

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

きこころし
きこころし
きこころし
きこころし
きこころし

まろひがり

薬獵。○カキつてまろひがりつてまろひがりのまろひがり

推古十九年五月廿日薬獵於鬼田也。○万六
昨日夜。○万二。まろひがりの夜。まろひ
まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

ののけあも

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

ののけあも

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

まらひ

○カハ昨日毛令つ日
毛雪りぬりマ

まろひがりの夜。まろひがりの夜。まろひがりの夜。

ちんせゆ
つうせ
くま
○目仁位
つらせをふれいあまことすすも。方三掃して尺れハ
なまこくまも。後脱右の地岸のきつこるからんさー

くま
○方十九
くま
○方十九
くま
○方十九

可悔者不持之。方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

○方五
○方五
○方五
○方五

みち

北使の

くにきぬびのうい

日ま行

くにのさのみ

國東

つうざれ

くにのちたてよ

國の盡

くらざり

日顯宗

座下

くへぶ

くみりき

細江

免

くら

くらよのや祓

榎

ソノト

藤戸出向

くさ

くさ

榎

修車

修車

くらよのや祓

くさ

修車

和反轉

久流

くらよのや祓

くさ

榎

和反轉

久流

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

くら

くら

くらよのや祓

くさ

榎

かきもまじりてき
せつむしともまじりてき
くろかつら 和細子より名かま良方十六ふち
かきにまじりてほとれとろかつら

き 曆あり。方五つ。くらの大ゆのへのけり。ぬき
き 日まじり。曆木。和峯樹。久留木。
くまなわ 馬背より。方十。れちお
乃ちまじりて花の色より

く 方五。きまじり。くのをうのく。く。ら。れ。つ。た。と。字。境
く 方五。きまじり。くのをうのく。く。ら。れ。つ。た。と。字。境
く 方五。きまじり。くのをうのく。く。ら。れ。つ。た。と。字。境

とめ 方三。大。こ。る。の。く。ち。れ。さ。し。め
く 方三。大。こ。る。の。く。ち。れ。さ。し。め
く 方三。大。こ。る。の。く。ち。れ。さ。し。め

息あそきぬ 桑替。方五。中。中。に。人。と。あ。り。の。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
らんりのこ く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

祿うへき く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

ひ 日。茶。の。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 日。茶。の。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 日。茶。の。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

相陸買云蜘蛛 海月成之。古上久
集而百事喜 日。垂。仁
く 日。垂。仁

く 日。垂。仁
く 日。垂。仁
く 日。垂。仁

も 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を
く 頭。著。衣。の。方。五。は。く。ら。の。も。ち。ら。ま。し。め。ち。を

一とよ中。万まきこちのなるうらひりしむら
くけあつつけのなつしんとらんむちん
このこゝめ 小角あゆの。和角久大乃

曰大角少南はの ハラクタ 履ハシの方九つたてよ 布に。日天年。新田方

方ねちやとの たて つけまけとも イクコック 抗ハシの古下 こゝりくのさつせの

方つちまふひをうちの日 なれ 番遇ハク 頭植ハシ 日。神代。頭植。日。月。神代。頭植。

方正はけつらうあけのろりい馬つちまき ついで むら 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

あつち 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 ち 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

い 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 異ハシの万五 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

い 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

○ 二二

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。 け 日。雄界。ぬえ。まの。かひの。つら。ま。ら。ま。せ。

情引し。○五十九 あたまのしをななく
情引し。○方三 思

おきて。ろのころひきりまうれやせ
く。ころつて思

へかき。ころつて思
情無着而。○五十九

い。ころつけぎて
よのなうに。ころつけれて井のふらうたほ

ころわね
心同し。○方五 杖をききききとつて。ころわね
情きし。○方三

ころわね
心振起し。○方三 杖をききききとつて。ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

ころわね
ころわね

乃こころふせだ 務休。方。むせの こえぬへー 了地。方。土。ち。え。ち。あ。る。神。の。い。き。も。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

伊ちちちあ。林のい。き。も。こ。え。ぬ 肥。産。の。方。八。わ。け。た。ち。わ。ら。と。ま。ま。に。へ。ち。ち。ち。あ。の。乃。は。ゆ。け。し。に。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こえぬへー 聲。列。其。一。き。こ。え。ぬ。へ。ー。と。わ。ら。は。ち。の。を。け。け。

こぼろのあざむきを 腰細之乃輕娘子。その。ハ胸ほりき中。やむ。女の細腰

。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

こぼろ 和歌集。和歌者。毛止都女。云々。和歌集。和歌者。毛止都女。云々。

○日皇極壽詠いもの一よこせるあやぐりやいよもいけとほもかすしへのそち。時人説

弟諡之慈曰伊波能くふ而翁上宮山背大兄山背大兄の山猿而翁入鹿の山猿而翁翁宮公也

にもつけてとほらをかすしへのをちるるちりちり山背之之臥駁カキテ山背之之臥駁

初難毛山年又似とすへにとすへ又曰事終其まに深山相へカキテ初難毛山年又似とすへにとすへ又曰事終其まに深山相へ

ききと野の宮又かかてこりり。方一赤すしてそのこひききのなくこ

しき徳と翁の長しとカキテしき徳と翁の長しと

わやひちりりカキテわやひちりり

くカキテく

彩房の規ここさまはたか。ま後規小蛇之自孫。方六位者の

ことすのまもあけもたかこもりのこやもこひわらりやも

あももへへんもなへへちるへ。方九

こひいころもカキテこひいころも

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

こころをかくカキテこころをかく

山崎よりつづる神のよかも

和鑑依天 綱の眞形後後度

さぬもあ

さぬか

さひ。と刀劍のこと

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

さひ。とさひ

丹室こゝろ 丹室

さにぬりさにぬりの本

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

丹室こゝろ 丹室

さにぬりさにぬりの本

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

丹室こゝろ 丹室

さにぬりさにぬりの本

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

丹室こゝろ 丹室

さにぬりさにぬりの本

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

さねさね

